

大津市中心市街地活性化協議会支援業務の成果と課題について

1. 大津市中心市街地活性化協議会支援

(1) 支援の概要

協議会による基本計画の進行管理及び情報共有の手法に関するアドバイスを行うとともに、協議会の企画、資料及び議事録作成を実施しました。また全国の認定中心市街地の状況及び活性化の事例を踏まえ、視察先候補地の抽出及び事前調査を行いました。

〈協議会開催日：全4回〉

平成21年6月10日、平成21年9月9日、平成22年1月26日、平成22年3月24日

(2) 支援の成果

協議会構成員が基本計画掲載事業の進捗状況を把握し理解するとともに、連携が可能な事業についてはプロジェクト会議を通じて事業の具体化に結びつけることができました。また、各プロジェクト会議等での検討内容や事業実施状況を協議会にて報告し、大津市中心市街地活性化における重点的な取り組みについて情報共有することで、基本計画掲載事業の進行管理に関する協議について、意識的に選択と集中を行い効果的な議論をすることができました。

(3) 今後の課題

平成21年度は、プロジェクト会議によりいくつかの事業を具体化し、また具体化の目途をつけることができました。今後も基本計画掲載事業や活性化に関連する事業を継続的かつ効果的に具体化するためには、新たなプロジェクト会議の組織化や再編等により事業内容の検討を進めることが求められます。また、中間年度となる来年度においては、未着手事業の見直し及び新規事業発掘を含めた事業主体へのヒアリング調査等を実施し、事業の統廃合などを積極的に進めることで活性化への道筋を明確にしていくことが有効といえます。



2. 大津市中心市街地活性化協議会プロジェクト支援

(1) 支援の概要

プロジェクト会議における企画、事業提案、資料及び議事録作成を実施しました。

〈プロジェクト会議開催日：全18回〉

①おもてなし情報発信プロジェクト会議（6回）

平成21年5月26日、平成21年7月6日、平成21年7月23日、平成21年8月20日、平成21年9月5日（有馬視察）、平成22年3月5日

②地域ICカードプロジェクト（4回）

平成21年5月18日、平成21年8月11日、平成21年11月18～19日（高松市・松山市視察）、平成21年12月16日

③町家利活用プロジェクト（8回）

平成21年5月28日、平成21年6月30日、平成21年7月30日、平成21年10月7日、平成21年10月28日、平成21年11月27日（飛騨高山視察）、平成21年12月6日、平成22年1月22日

(2) 支援の成果

各プロジェクトでの検討をまとめ協議会に報告しました。また、具体的な事業に取り組み、以下のような成果を達成しました。

①おもてなし情報発信プロジェクト

昨年度に引き続きまちなかで実施されているイベントや催しの情報収集を行い、連携手法などについて検討しました。その結果、「びわ湖大津秋の音楽祭」と題し複数のイベントについて共同広報を行い、各催しの集客力向上をめざしました。また、大阪の天満橋から浜大津間を走っていた「びわこ号」を大津のまちづくりに活用していくため、PRビデオの制作を行いました。有馬視察では全国あかりサミットを見学し、大津での開催に向けて調整をしています。

本プロジェクトは、更なる発展を目指しプロジェクト名を「おもてなし創造発信プロジェクト」に変更し継続していくこととなりました。

②地域ICカードプロジェクト

プロジェクト会議を通じて得られた情報をもとに先進地への視察を行い大津市でのICカード導入可能性について検討しました。その結果、先進地においてもカード事業のみでの採算性にはいまだ達しておらず、また都市の規模や地理的な状況などから大津市での事業化はより一層困難であるということが明らかになりました。以上から本プロジェクトはその役割を終えたことから解散することとなりました。

③町家利活用プロジェクト

昨年度に引き続き毎月第三土曜日に大津百町市を開催し町家利活用に関するPR活動に取り組みました。また登録有形文化財への適用を推進するため基礎調査を行い、今年度は5件の建物が登録されました。今後も登録数を増加させ、登録有形文化財を巡るツアーなどを企画していくことが望ましいと考えています。旧町名看板については試作品を制作し、来年度以降設置に向け地元住民と本格的な調整等を実施していく予定です。

(3) 今後の課題

平成22年度以降取り組む「おもてなし創造発信」「町家利活用」の各プロジェクト会議については、検討する内容が複数となっているものや事業化を受けて具体的な取り組みとなっているものがあることから、プロジェクト会議の分科又は細分化を行い、より集中的な議論のできる場を設けることが必要となっています。しかし、現在のプロジェクト会議メンバーの人的資源不足とともにメンバーへの負担も増える可能性があることから、分科や細分化に当たっては新たなメンバーや参加団体の発掘が欠かせません。加えて、現在は1つのプロジェクト会議で議論しているため情報共有が可能となっていることが、別組織となる場合にどのように情報共有をしていくかという課題とともに、事務局の負担増加につながる分科、細分化については慎重な検討と段階的な実施が必要です。

<おもてなし情報発信関連事業>

・有馬視察の様子



・びわ湖大津秋の音楽祭パンフレット



・びわ湖大津秋の音楽祭の様子



・びわこ号



<地域ICカード視察様子>

・高松市こでん(左:商店街 中:改札のICカードリーダー・電磁切符は無い 右:店舗に設置されている電子マネーリーダー)

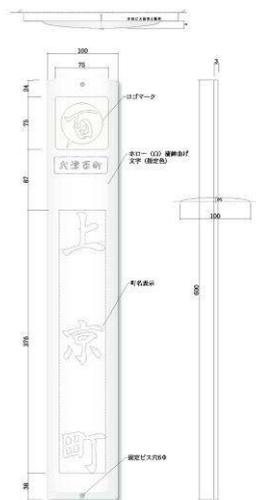


・松山市いよでん(左:伊予鉄道でのレクチャーの様子 右:伊予鉄道松山駅の改札)



<町家利活用PJ関連事業>

・大津百町旧町名看板試作



参考看板

大津百町看板試作品
w=1005.5 h=6005.5



・登録文化財を活かしたまちづくり



・飛騨高山視察の様子



・立命館大学大学院まちなみCGの様子

修景案⑥

電柱	街灯	建物の色、素材	道路舗装	看板類	建物の建具
地中化	現状の街灯	落ち着いた色に統一	景観舗装	現状の看板	伝統様式に改修



3. まちづくり事業コンサルティング

(1) 支援の概要

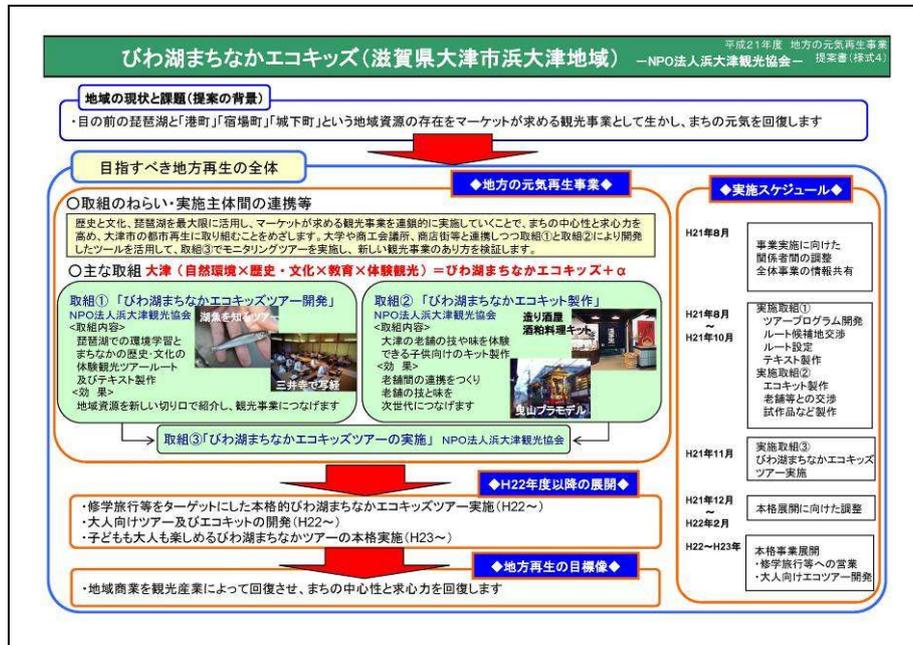
「びわ湖まちなかエコキッズ」については、「平成 21 年度内閣府地方の元気再生事業」への応募に向けたコンサルティングを実施しました。また、「琵琶湖湖岸活用エコツーリズム事業」の一環として実施している「湖の駅」事業拡張に伴う「大規模小売店舗立地法に関する特例措置」について検討及び資料作成を行いました。

(2) 支援の成果

①びわ湖まちなかエコキッズ

「びわ湖まちなかエコキッズ」は、「平成 21 年度内閣府地方の元気再生事業」に採択され、平成 21 年 11 月 8 日、12 月 23 日にモニタリングツアーを実施し、たくさんの親子に湖とまちなかをつないだツアーに参加頂きました。

※平成 22 年 3 月 27 日に第 3 回モニタリングツアーを予定



平成 21 年 11 月 8 日実施ツアー

- ・びわ湖クルーズとロープワーク
- ・びわ湖クルーズと水の実験
- ・400 年の歴史！大津絵体験

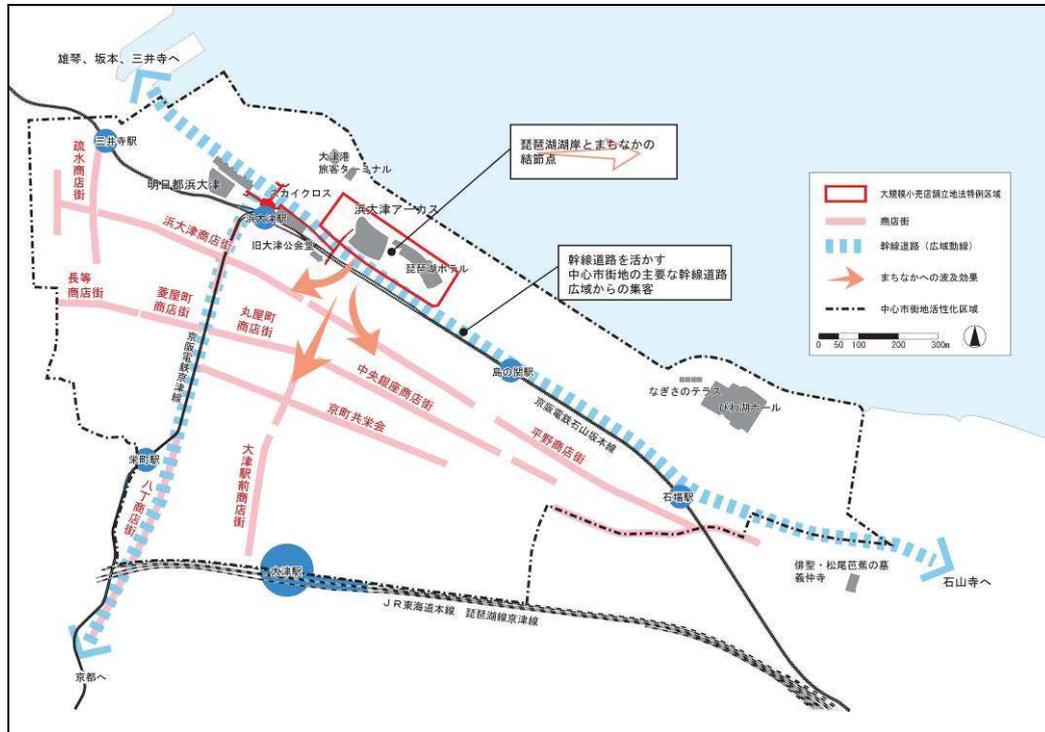
平成 21 年 12 月 23 日実施ツアー

- ・びわ湖クルーズと食のソムリエ（おせち武門）
- ・ヨシ職人にチャレンジ
- ・かまど体験で火おこし職人になろう
- ・畳屋さんが教えます。畳アーティストになろう



②大規模小売店舗立地法に関する特例措置に関する検討

特例措置を検討している区域について、当区域が持つ性格や役割について客観的な考察を行い議論の基礎的な土台づくりを行いました。その後、特例措置を導入するための区域指定理由等の検討資料を作成し、協議会での議論に活用して頂きました。



(3) 今後の課題

基本計画の基本方針に基づき、着実に成果を挙げている分野がある一方で、事業の見通しが立っていないものがいくつかあります。平成22年度は計画期間の3年目に入ることから、今後はそれら未着手又は事業化が難航している事業について、事業化に向けた集中的な検討をする、または事業を継続していくかどうか判断する、さらには事業化が難しい場合には代価案等を検討するなどにより、基本計画の基本方針及び目標に沿った見直し作業が必要となっています。